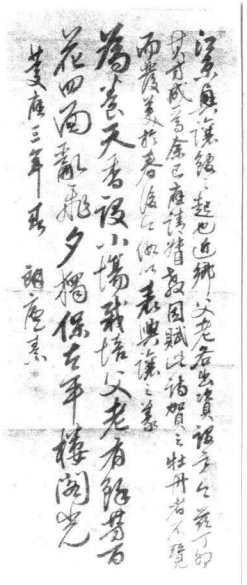
阪谷朗廬（さかたにろうろ）儒者。文政五年十一月十七日備中國川上郡九名村生れ、明治十四年一月十五日歿（一八三一―八一）。諱素、字子絢、幼名素二郎、通稱希八郎。別號微笑子、朗廬學人、朗廬學士、朗廬小史、朗廬居士、朗廬素等。父良哉に隨うて大坂に赴き、奥野小山、大鹽平八郎の大門。更に東上して昌谷精溪、古賀侗庵に師事。文名籍甚、諸藩の招聘を謝して歸鄉。嘉永四年築瀨村櫻溪に開塾、六年鄉黌興讓館主となり多くの子弟を教授。文久中諸處巡遊して尊王開國の説を主唱。維新後廣島藩賓師、次で陸軍省、司法省等出仕。

著書『朗廬文鈔』全三册（阪田丈平編、明治十八年十一月阪谷次雄出版、吉川半七・須原鐵二・博聞社發賣）等の他、『贈正五位阪谷朗廬事歷』（大正五年一月十三日阪谷芳郎編刊）、『阪谷朗廬先生五十回忌記念』（昭和四年十一月二十八日阪谷芳郎編刊）がある。